

催し、これによって、会員の親睦の場と新会員勧誘の手段にもしたいものと考えています。

この会は、毎回支部会員全員に往復ハガキで案内

回	期 日	テ ー マ	発 表 者
1	8月21日 (月)	設備計画の数学的 モデル化	東北大学工学部 教授木村正行氏
2	9月18日 (月)	統計的手法による 交通事故解析	東北工業大学 安藤二郎氏
(下期については下記のものから選定)			
		<ul style="list-style-type: none"> ● 東北地域の産業連関表による経済構造分析・電力需要予測手法 ● 設備の取替モデル ● 新聞業における OR の活用 ● 東北の景気変動と電力需要との関連 	

し、その職場の会員外の方々にも口コミで広く参加していただく予定ですが、いまのところ左記のような計画をたてています。

◎ その他

企業内で開催される OR 関係の講演会には、支部としても会員に案内を出し、広く聴講できるよう便宜をはかることにしています。

なお、5月末の支部総会において、昨年北海道支部から東北支部に転入された東北大学経済学部教授竹内 清氏による「回帰分析における観測誤差の影響」と題する特別講演が行なわれました。

支部規約については、OR 学会の法人化を機会に改正すべき点も見受けられますが、とりあえず会計年度のみを変更し、本格的見直しは今年度中に行なうこととしています。
(五十嵐豊)



国際会議のおしらせ

下記の国際会議のパンフレットが、学会事務局に届いております。ご希望の方は、お申し込みください。

会議名：First International Research Conference

期 間：1973年9月4日～7日

会 場：Grosvenor Hotel, Chester, England

主催者：Operational Research Group, University of Sussex

この会議の目的は、各国の OR 研究者、経営科学者の参加のもとに、関係する多くの問題領域についての総合報告と討論を行なおうとするものです。

会 合 (47年6月～7月) (かっこ内は出席者数)

第1回理事会 47.5.28(21) 議題 1. 申し送り事項および引き継ぎ事項の確認 2. 総会決議事項の報告と確認 3. 支部長会議の件 4. 各委員会委員、幹事の推薦と承認 5. 組織強化委員長の件 6. 会長不在時の会長代行の件 7. 会長印の登記の件 8. 議事録の承認の件 9. 入退会の件 10. 職員採用の件 (6月1日から村上芳子職員を採用)

第2回理事会 47.6.22(16) 議題 1. 前回理事

会議事録の承認 2. 広告委員会委員の推薦と承認 3. 学会運営連絡用紙の採用 4. 学会誌の15周年記念特集の件 5. 学会誌のバックナンバーの販売価格の件 6. 第6回 OR 国際会議参加の日本代表の件 7. フェロー推薦の件 8. 法人化委員会の件 9. 入退会の件 10. 学会誌交換の基準の件 11. 各担当理事および委員長の本年度の業務の件 12. 委員会等の予算内訳の件

第3回理事会 47.7.20(16) 議題 1. 第2回理事会会議事録の承認 2. 第6回 OR 国際会議参加の日本代表の件 3. 会員増強委員会委員の件 4. 会員増強のための方策および文書などの件 5. 職員就業規則、給与規程の件 6. 入退会の件 7. コーポレート・プランニング視察団の件 8. 研究普及委員会の今年度の業務方針 9. その他

支部長会議 47.5.28(10)

IAOR委員会 47.6.20(2); 47.7.21(2)

会員増強委員会 47.6.28(3)

IFORS・TIMS 準備委員会 47.7.19(6)

編集委員会 47.7.28(9)

OR 金曜サロン 47.7.7(9) “組合せ理論と OR”

庶務幹事会 47.6.8(9); 47.7.4(8)

会計幹事会 47.6.8(4); 47.7.4(3)

国際幹事会 47.6.14(2)

編集幹事会 47.6.27(11);47.7.13(9)

研究普及幹事会 47.6.30(7)

入退会 (47年5月10日より47年7月19日まで・
5月28日, 6月22日, 7月20日理事会にて承認)

入会

〔正会員〕

稲田久仁男(市場調査社)・小林功武(日本ユニバ
ック総研)・坂田竜範(鉄道技研)・鈴木健一(都立池
袋商業高校)・津森正夫(毎日新聞社)・富沢信明(東
工大)・中田史男(日立)・米口 肇(日本ユニバック
総研)・町原 英(塩野義製薬)・村本純二(日本製鋼
所)・伊井 勉(東京証券計算センター)・位高節雄
(日本科学技術研修所)・石田喜士男(日本電子サー
ビス)・石間紀男(食糧研究所)・上田亨三郎(東北電
力)・小野勝章(小野勝章事務所)・大内昭司(防衛
大)・柏戸武夫(千葉工大)・腰塚武志(東大)・渋谷
朋一(近畿大)・庄司源弥(電々公社東北電気通信
局)・谷池 宏(同)・中野 章(電気通信総研)・西浦
行雄(国鉄)・花輪契志(日本経済新聞社)・松本光平
(建築生産研究所)・山田武夫(防衛大)・山田善靖
(野村総研)・泉 誠二(北海道電力)・泉館昭則(電
々公社東海電気通信局)・大竹進一郎(同)・牧野朋

友(同)・安井泰一(同)・山田義正(同)・岩村寛三
(城西大)・遠田雄志(法政大)・加藤勝康(日立)・川
畑周作(京都学園大)・関 進(日立)・長尾真也(大
洋漁業)・深川幸紀(東和大)・松田 博(キャタピラ
ー三菱)・毛利峻治(日立)・渡辺俊典(日立)

(以上44名)

〔学生会員〕

小川 聰(京大)・平岡達夫(早大)・古川博茂(慶
大)・松本昌二(東大)・井出功好(東洋大)・上脇辰
三(法政大)・木村 繁(同)・高倉良昭(同)・西岡雅
男(慶大)・沼田一道(東大)・井出俊郎(東北大)・小
牧良高(慶大)

(以上12名)

〔賛助会員〕

日本科学技術研修所・西村肇会計事務所

(以上2社)

退会

〔正会員〕

宮崎啓子・木本 正・津村英文

(以上3名)

〔賛助会員〕

日本アイ・ビー・エム(株)北九州営業所

(以上1社)

第8回数値計画国際シンポジウムのおしらせ

(8th International Symposium on Mathematical Programming)

期 日：1973年8月26日～31日

場 所：スタンフォード大学

主 催：The Mathematical Programming Society

論文アブストラクト提出期限：1973年2月末

論文アブストラクト送り先：

Professor George B. Dantzig, Department of Operations Research
Stanford University, Stanford, California 94305, U. S. A.

シンポジウムの詳細は、下記へお問合せください。

Professor Richard W. Cottle, Dept. of O. R., Stanford Univ.
Stanford, Calif. 94305, U. S. A.